

シリーズ「金田地区を知る」

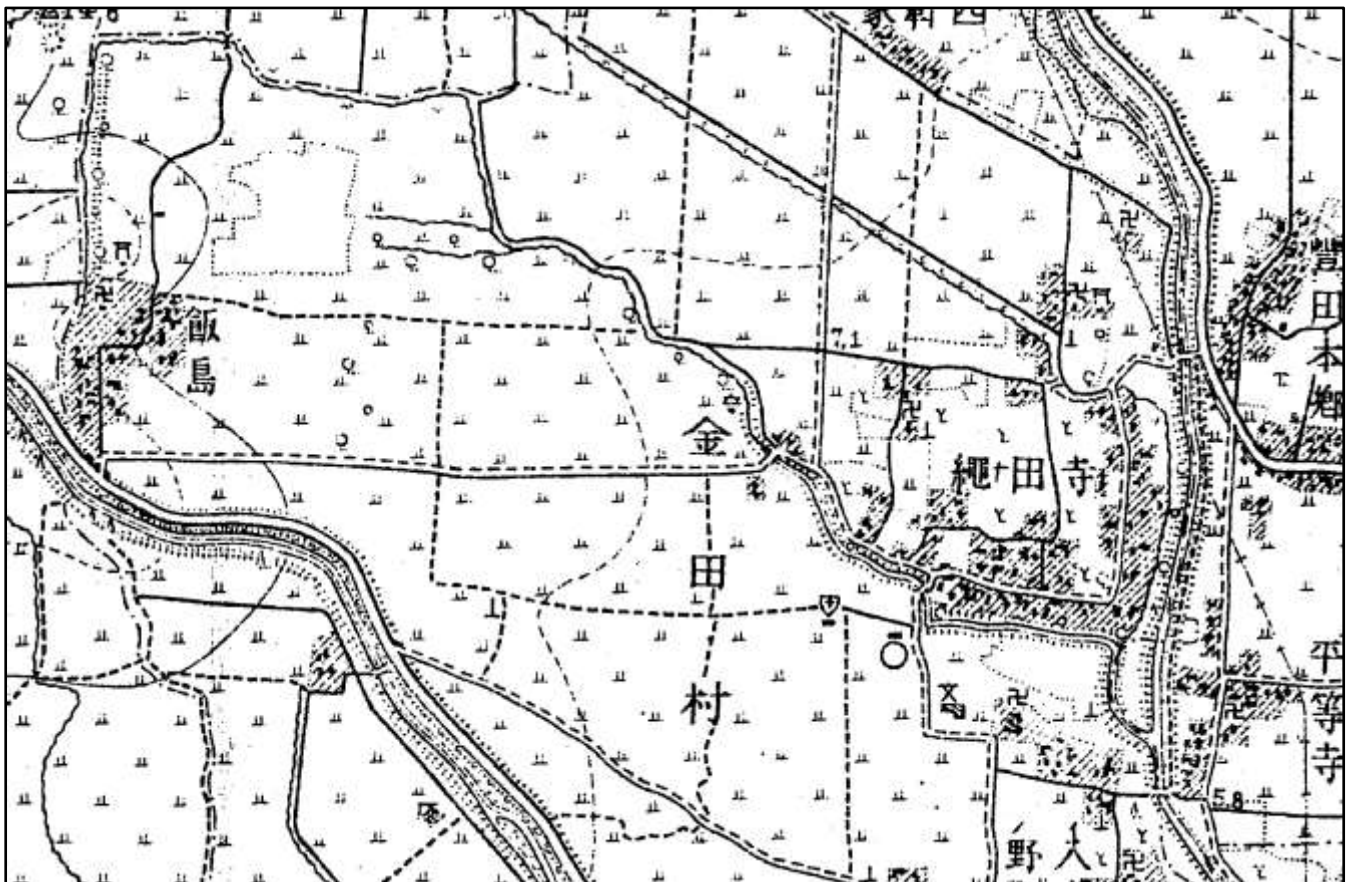
昔の地図でたどる金田地区 2

今回は、寺田縄地域から飯島地域をたどります。

前回は、入野地域から長持地域をたどりましたので、金田地域はすべて踏破しました。

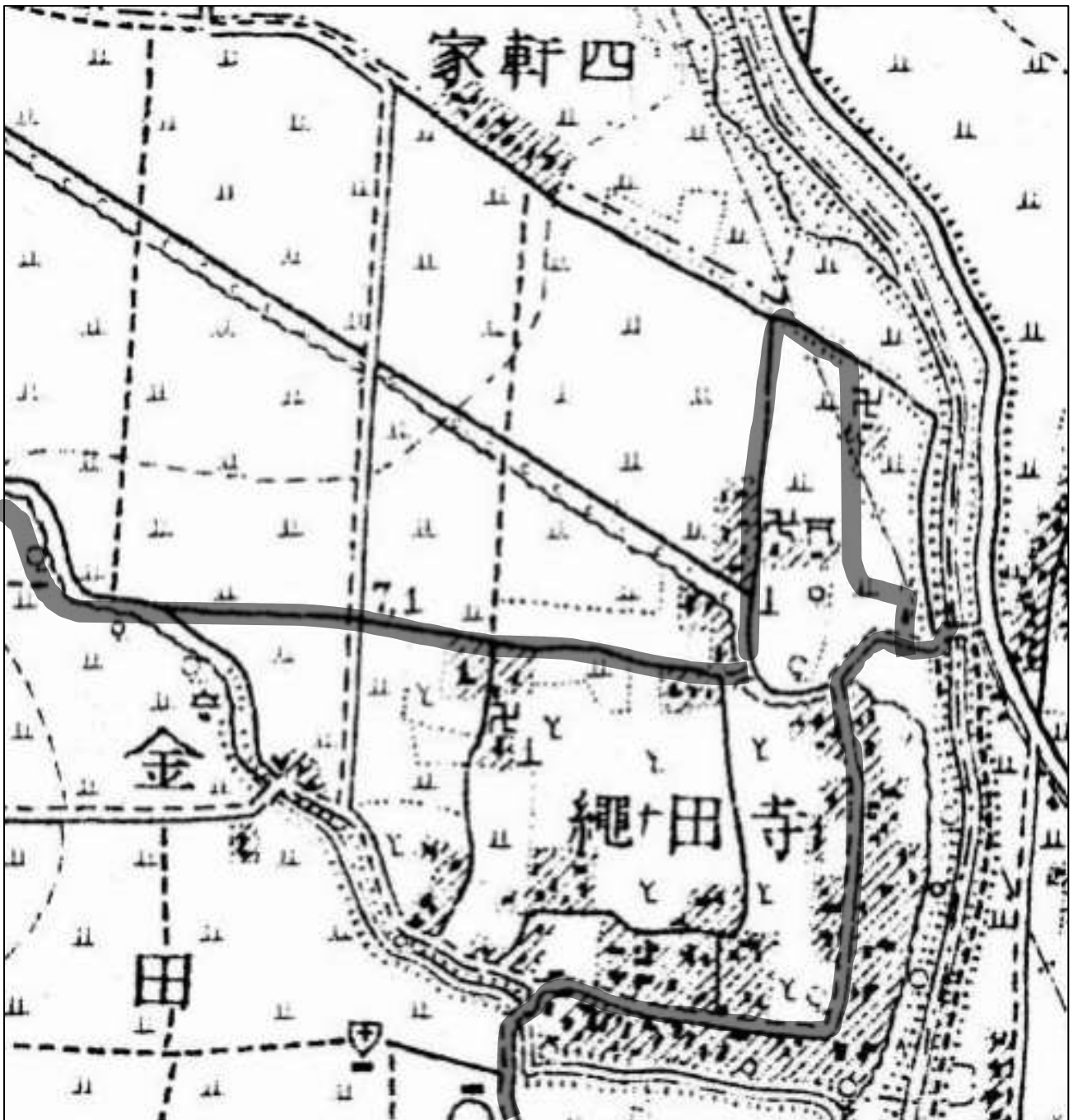
その資料をお届けいたします。

大正10年（1921）地形図 大日本帝国陸地測量部



*** 昔の地図でたどる金田地区 (寺田縄・飯島編 1) ***

大正10(1921)年 大日本地理測量部



① 富士見橋と水門

古川排水路に架かる富士見橋、現在は富士山を望めませんが、昔は遠望されたようです。現在は、上水（水道）の青いパイプが通り、近くに水門とポンプ小屋があります。

水門は、古川排水の流れを堰き止め、小屋内のポンプで揚水し、小学校の北の方まで引水し、水田の用水として再利用され、水の不足を補っています。

この古川排水路は、金目川の古い流れ（旧河道）であったとも云われています。

② 逆L字型の道路

富士見橋を渡り、直進し、カーブしながら新幹線ガードをくぐるこの道路は、寺田縄から入野、長持を経て金目川沿いの曾屋道（秦野道）に続いています。昔、このルートは、いわば、寺田縄のメイン村道である「逆L字型の道路」を形作っていました。この道路に沿って多くの住居が立っていました。

道路の西側は、寺田縄地域でわずかに高い地形（微高地）であり、大正10年当時は、地図に見られるように、桑畑として利用されていました。

<課題・1> 歩きながら、道路沿いにある家々の「表札名」（苗字）に注意して下さい。

③ お屋敷跡

地図上の「寺田縄」と記された「田」の辺りに、「寺田縄御屋敷」があったと云われています。水田の多い寺田縄地域にあって、わずかに高い地形（微高地）で、住居としての立地条件は良好の地で、字名では「東栖（すみ）」、「仲條」、「西棲（すみ）」と区画されます。栖（すみ）、棲（すみ）は住むところを意味し、仲條は、寺田縄の中心地という意味を持っています。いずれも寺田縄で多くの人たちが住居を構え、また畑地として利用し、暮らしを営んでいました。

「寺田縄御屋敷」は、誰の御屋敷だったか、誰が住んでいたかの明確な歴代の記録はありません。居住者は不明ですが、小田原北条氏の時代、配下の布施氏が寺田縄の地を領有していたとする「北条氏所領役帳」が残されています。そこには布施弾正左衛門が「寺手縄」（寺田縄）を治めていたと記されています。その布施氏の館がこの地にあったのでしょうか。布施氏は「己が宅地を寺地（蓮昭寺）として再興し」と文書にもあるように、「寺田縄御屋敷」と云われる館の主は、布施弾正左衛門と推察されます。近年、この地には、亡くなられている、石川平塚市長のお兄さんが居を構えていました。今は、ご長男が利用しています。

<課題・1>の解答 多く見られる苗字

「逆L字型の道路」に沿う家々に見られる、苗字は、二宮、高橋、本田、小泉、石塚、足立などの苗字です。

■ 「相州大住郡寺田縄村 村中百姓衆中覚」（年代不詳）という文書が残されています。内容は『小田原北条氏滅亡、徳川家康が関東に入国した天正十八年（1590）からの村の有力農民とその分流をまとめている』（平塚市史） その有力農民として挙げられているのが、前出の苗字を

もった人たちでした。

「天正十八年寅年ら（より）百姓」と記されている、高橋家、石塚姓の五家とする「本家」筋が六戸とその分家。他には、記載される年代を異にしたり、年代が不記載の家々があります。また、他の地域からの転居と思われる家々等々を背景にして、本田、小泉、足立、舩木、中嶋、南里、北村、二宮、吉川、井出、飯塚、等の苗字を持つ、本家と分家が記載されています。

天正十八年は、小田原北条氏が豊臣秀吉に敗れ、徳川家康が江戸城に入った年です。戦いに敗れた小田原北条氏配下の武士たちが、寺田縄に土着し、農業を始めたと読むこともできます。

この本家分家の多くが居住地としているのが、「逆L字型の道路」沿いと、周辺です。まさに『この地は、寺田縄で近世初頭に開かれたニュータウンと云える』（平塚市博物館早田学芸員講演）と、評価されています。 他の説もあります。

北条氏の配下であった寺田縄在住の武士たちは、新しい統治者である徳川家康により「百姓身分」として取り立てられた。新たに寺田縄に土着したのではなく、寺田縄に居住し農業を営んでいた北条時代の配下たちは、北条から徳川という支配関係が交代したが、農民としての生業を変えることなく、かつ、居住地も変えることなく、新時代を迎えた。

時が経過し、寺田縄村には新たな「姓」を名乗る農民たちの移住をむかえ、「村中百姓衆中覚」の記載がなされた。

よって、この地はニュータウンではなく、歴史あるオールドタウンである。 と、云えないでしょうか。 （片山説）



④ 東海道新幹線「高架」の秘密

工事着工 昭和34年4月 5か年で完成しました。

地元対応 平塚市： 国鉄新幹線対策委員会 委員長 戸川市長

地元： 国鉄新幹線対策連盟 会長 高橋 勇

地元要望 正当な補償での移転、騒音・振動、加えて、高架方式の採用が求められました。

国鉄： 築堤方式より土地取得が容易であるため、高架方式は市街地で採用されている。

地元： 水害予防、農業経営上のため、金目川まで高架方式を求めました。

結論： 距離は短縮されましたが、高架方式が採用され、今の姿があります。

⑤ 寺田縄の便利どころ

しばらくすると、セブンイレブンに行き当たります。

昔、金田地区にはお肉屋さんがありませんでした。お肉を食べるにも、カレーライスに肉を入れるにも、平塚の町まで買いに出なければなりませんでした。そのため、「お肉はなかなか食べることができませんでした」と、年配の人は寺田縄の昔を語ります。

今は、セブンイレブンが何かと便利です。開店当初の来客数は一日当たり、千人を超えていたと聴きます。

⑥ 金田排水路を渡る「山王橋」、「宝来橋」

金田排水路： 寺田縄の広い水田地帯を北西部から斜めに横切り流れる、重要な排水路です。日枝神社、東善寺の南を巻くように流れ、鈴川に沿い、南下し、古川排水路と合流します。

西側が「山王橋」、東側の逆し字型の道路を渡るのが「宝来橋」です。現在は暗渠となって、道路下を流れています。昔は地表の流れとして、橋が架けられていました。

古川の流れは、曲がり曲がっています。地表を流れる昔からの自然の流れと考えられます。金田排水路は、明治37年に実施された耕地整理に合わせ、開鑿された流れです。本資料の表紙の明治15年の地図にも、この流れが有り、今は、農道に沿って直線に排水を流しています。

⑦ 東 橋

鈴川を渡る「東橋」は、江戸時代の村絵図にも記されています。寺田縄と豊田本郷村、平塚村へ通じ、また、大山石尊社へ参る大山道としても重要な「橋」です。

付近の字名は「出口」と云います。寺田縄村から外界へ出る所、繋ぐ所の意味でしょうか。戦争の時代、『出征する兵士を出口から送ると死ぬ』と云われたそうです。寺田縄への「入口」は入野に通ずる道だったそうで、兵士は入口から戦場へ送られて行きました。(民俗調査報告書)

昭和47(1972)年、昭和49年の相次ぐ豪雨により、鈴川の川幅を広げ・直線化することになりました。昭和62年(1987)鈴川の拡幅・直線化工事が着工され、2年後の平成元年(1989)東橋の渡り初めが行われました。

かなりの大工事で、流入する「えのしろ排水路」、「古川排水路」は鈴川の流れに合わせ、掘り下げられるとともに、コンクリートの護岸が施されました。

鈴川の改修は、都市河川重点整備計画（セイフティーリバー）のもとに実施され、河川災害を防御するだけでなく、地域住民の安らぎの場となるような河川であることを目途に、堤防を緑化し、水辺への階段を設け、親しみのある護岸工事、流れには魚巣ブロックと、豊かな自然みを醸す工事が進められました。その甲斐あってでしょうか、今では、「野鳥の宝庫」とも云われています。

東橋の橋脇には「水位計測計」が設置され、常時、鈴川の水位（流れの高さ）を計測し、防災の情報が観測・発信されています。

鈴川は、2級河川で神奈川県管理下にあります。水位の計測結果は、県の土木事務所経由で平塚市へ情報が提供され、市の危機管理課から、雨量、地形等を勘案し諸発令が発信されます

■ 鈴川の水位と諸発令の関係

水位が2m10cmになると「水防団待機」

2m70cmになると「氾濫注意・避難判断」の段階

「避難準備・高齢者等避難開始」の発令：鈴川の水が堤防を越える1時間ほど前

3m20cmになると「氾濫危険」の段階

「避難勧告」の発令：鈴川の水が堤防を越える30分ほど前

「避難命令（緊急）」の発令：水が堤防を越える危機の段階

平塚市のHPからは、水位情報だけでなく「ライブカメラ」と云って、橋と川の流れを常時、観察することができます。台風の雨風の強い中、鈴川の流れの状況を目視するために、家を出てはいけません。危険です。HPで見てください！

東橋からは風水害に関連する、重要な情報が発信されています。HPを有効に活用してください。

⑧ 二つのお寺と神社 地図上に卍と卍

- 東善寺：山王山東善寺。曹洞宗。吉祥院末。隣地の山王社の別当。
関東地震で倒壊し、本寺の瑞雲山吉祥院と合併し、廃寺となりました。
地図の北に位置する 卍は瑞雲山吉祥院です。現在は石碑が建てられています。
- 日枝神社：山王社・山王権現社と称し、江戸時代には2石の御朱印を拝受しています。
明治時代の神仏分離政策により、日枝神社と改名しました。
神輿は、比々多神社から譲られた神輿を担いでいましたが、老朽化が進み、寺田縄の太鼓連（山王会の前身）の人たちが昭和62年に手作りで完成させました。計画から6年の年月が経過しました。寺田縄地域を渡御しているのは新神輿、旧神輿は拝殿内に安置されています。子ども神輿は、地元の大工さんの手作りで奉納され、子どもたちが担いでいます。
- 北に位置するのは「吉祥院」：瑞雲山吉祥院。曹洞宗。15石の御朱印拝受。現在の吉祥院は、東善寺の跡地に立ち、東善寺の山号を継承し山王山と称しています。

⑨ 鈴川の流れ

『寺田縄村 飛地二所<合セテ三反十一歩>平等寺村ニアリ<村堺鈴川ノ堀替アリシヨリ飛地トナレリ>』（相模国風土記稿）とあるように、寺田縄地域の土地が鈴川を挟んで平等寺村にあります。

新しい地図では、長持地域に、中原下宿が、寺田縄地域には豊田本郷、豊田平等寺、豊田宮下、

等の住所があります。本来、鈴川の向こうに位置する地名が鈴川の右岸、こちら・金田地区にあります。

これ等は、『村堺鈴川ノ堀替アリシヨリ』とありますように、曲がり曲がって流れていた鈴川の流れ（曲流）を、真っすぐな流れに代えたことによって、取り残されてしまった土地が生まれました。これを、行政上は、飛地（とびち）と云います。河川を直線に改修したために、このような飛地を誕生させました。

⑩ 字名「えのしろ」 大正10年の地図では水田

漢字で表記すると「会下後」です。これを発音する時には、えのしろ、えげうしろ等と呼びます。珍しい字名です。低い土地、えぐられた土地という意味があり、鈴川の曲流が土地をえぐり取り、低くなった土地という由来とも云われます。

別には、会下（えげ）の意味から、吉祥院の高僧の下には、多くの僧（会下僧）が学んでいましたが、その教えを受ける寺院の後ろに位置する土地とも云われます。「えか」とも読みます。

⑪ 県立食肉センター跡地

県立食肉センター： この建設当初は市街地の外れでした。しかし、周辺の住宅建設が進み地上の難点が指摘されてきました。悪臭や鳴き声が、地域にとって迷惑施設と評せられ、その後、平成11年に厚木市へ移転し、民間の（株）神奈川食肉センターとして営業を行っています。

・ 移転後の跡地利用

吉野市政： 全面売却・住宅地として販売する。しかし、実現はされませんでした。

大蔵市政： 利用可能施設を活用する。 食肉会館：市立埋蔵文化財調査事務所。

施設取壊し後の空き地： 寺田縄公園、キッズ保育園、北側を宅地化される予定。

・ 食肉検査場としての県立施設は、残されています。

⑫ 控え土手（堤） 岡崎・四軒家

金田村 初代村長吉川長五郎氏（明治22～39）の尽力で完成しました。

村長就任後、雨が続き鈴川が氾濫の危険を繰り返したため、寺田縄、金田地域を水害から守るために土手（控え土手）を建築しました。その規模等は資料がなく分かりません。

明治22 市町村制 金田村誕生 明治29 大住郡・淘綾郡の統合 中郡金田村

昭和31 町村合併促進法 平塚市に合併

⑬ 耕地整理と字名

金田地区の耕地整理は、寺田縄地域が先駆けとなり明治37（1904）年に第一回目として実施されました。『鈴川沿岸は金田村が率先して整理し其成績良好なる』（横浜貿易新報）と報じられ、金田以外の地域に拡大・実施されてゆきました。

金田地区では、その後、昭和の初年に至るまで、第二、三回と実施され、入野、長持へと範囲が広がられました。

耕地整理は、水田一枚を一反（300坪）とし、地域の水田が整然と区画されました。合わせて、水田の用排水の便が向上し、農道も完備され生産高は増大されました。

<課題・2> この耕地整理では、伝統を破る珍しい字名が命名されました。さて、その名は？

<課題・2>の解答

明治37（1904）年の日露戦争に因み、これまでの字名を統合して、「東郷」、「大山」、「連勝」、「三七起」（みなき）、「明治」という字名としました。寺田縄から飯島地域への古川排水路を渡る橋には「三七起橋」と名づけられました。

新たに命名された字名です



昭和19年頃には耕地整理の終わった水田に暗渠排水が完成しました。冬には水田の水を落とし、麦を栽培するなど、農地は二毛作が可能になり、牛馬を導入した有畜農業、そして農作業の機械化が急速にすすめられました。

⑭ 金目川の河道（推定されるかつての金目川の流れ）

- 小田原厚木道路 橋脚工事： 地下30m 超から 金目川の岩石
- 平塚西郵便局建設： 古墳時代 祈りの遺跡（沢狭遺跡）

- 古川排水路： 水神を祀る
- 入野・成願寺北： オオマガリ付近、水神の塔、天王道、入野村の中程から鈴川へ流入
- 今日の流れ： 宝永3（1076）年 改修され築堤、農業用水としての活用が目的

■ 地形・地質

金目川・鈴川： 土砂の運搬と堆積が進み、扇状地性の地形を形成しました（扇形の地形）。現在の地質は、金目川や鈴川の川底を形成している土砂が積み重ねられ、作られています。

鈴川： 緩やかな流れ 土、泥

金目川： 速い流れ、小石を含む砂利質層、伏流水あり

扇状地性の地形： 先端部分の豊富な地下水、「掘抜き井戸」（自噴の井戸）

⑮ 寺田縄から飯島地域に至る道の謎

農業総合研究所の建設に伴い、ほぼ直線の道路が建設されました。金旭中学校への道は、花菜ガーデンの開園とともに、「三七起橋」を渡り歩道が整備され安全な生活道路となりました。

■ 本資料の表紙に、明治14・5年のツツラ折れの道路が記されています。



<課題・3> なぜ、道路がツツラ折れになっていたのでしょうか？

- 耕地整理は行われていないので、自然に近い地形が残されていました。
- 扇状地性の地形で飯島方面の西に高く、東の寺田縄・鈴川方面が低く、地形的には、東方面に傾斜しています。（日常生活では、気づきませんが・・・）
- 傾斜地を行くとき、道は、直線ではなくつづら折れの状態を作り、行き来することになります。
- この場所は、傾斜が強かった。と云えるでしょう？

付近の字名は「中筋」、「本郷」、と呼ばれ、道路は「本郷道」といい、寺田縄地域にとっては、入野・長持経由と同様、曾屋道（秦野街道）に至る、メインの道路だったと思われます。

⑩ 古川排水路・桜並木

- ・ 農業総合研究所として、昭和34年に大船から移転してきました。
古川沿いのサクラは、昭和40年頃、当時の職員たちが植樹したそうです。
- ・ 花菜ガーデン：農業総合研究所が吉沢に移転した後、2010年3月にオープンしました。

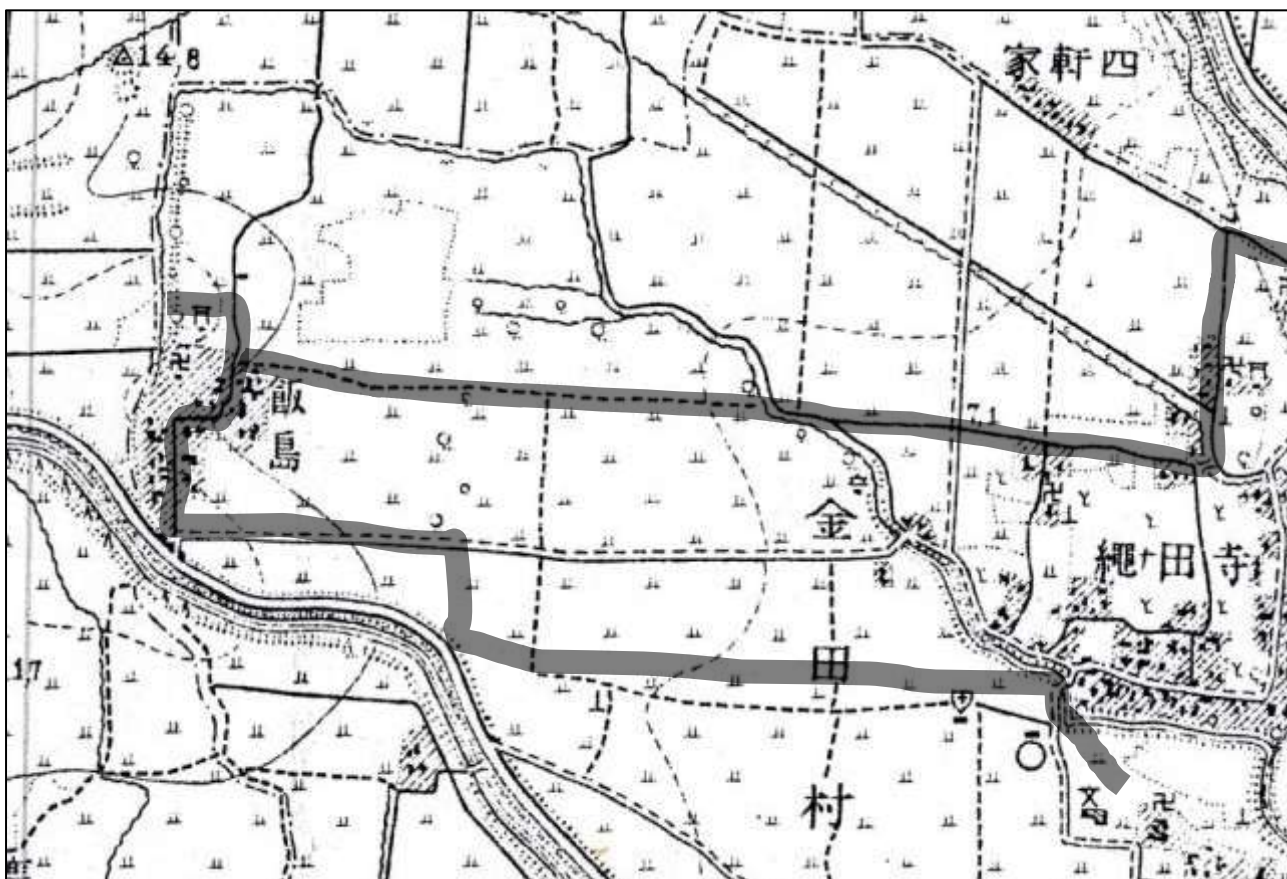
⑪ 県立平墳養護学校

昭和44（1969）年に開校した、小・中・高までの学校です。

水準点・標高	平成24. 1	11. 543m
--------	---------	----------

*** 昔の地図でたどる金田地区 （寺田縄・飯島編 2） ***

大正10（1921）年 大日本帝国陸地測量部



① 飯島控え土手（堤）の跡地 （地図確認）

- ・ 設置年代、規模などは不明 北側は小田原厚木道路で分断されています。
- ・ 連合用水は西側から北側へ通り、寺田縄の水田に流れています。
- ・ 設置目的：西に位置する片岡方面からもたらされる、金目川の洪水を防ぎ、
東側に位置する飯島・寺田縄・入野地域などの広範囲な土地、家屋、田畑を防御する。

<課題・4> 飯島の控え土手は、金目川のどの部分の決壊を想定したのでしょうか？

- ・ 控え土手のすぐ西側に金目川の流れが曲がっています。堤防の決壊が起きやすい部分です。洪水から守るべき地域は・・・飯島の集落・水田地帯・寺田縄の集落
- ・ 少々下流部に、金目川の流れが、北東にせり出している所があります。この部分を「オオマガリ」と呼んでいます。ここも決壊しやすい土手とされています。

② 明珠院

水準点・標高	平成24.1	13.793m
--------	--------	---------

山号は飯島山 不動寺 天台宗（淘綾郡高根村莊厳寺末）

③ 八坂神社 村の鎮守としての神社です。天王天神合社でしたが、明治時代に八坂神社として改称されました。

平成7年 不審火で社殿が焼失しましたが、平成9年に再建されました。

④ 飯島集落 石垣 防水

⑤ 金目川堰（飯島堰） 金目川用水改良事業計画

金目川の用水確保のために工事が進められ、昭和29年に完成しました。この堰により、9か所あった下流の取水口（堰）が閉鎖されました。

川の左岸で取水された用水は金田地区へ送水されるとともに、サイフォンという技術で川の右岸、金旭中学校の脇を流れ、旭地域に送水されています。

秦野県道の歩道橋の下で流れが分けられています。

⑥ ナガヤマ控え土手 飯島と寺田縄の境界に控え土手がありましたが、耕地整理で消滅し現在は見ることができません。

⑦ 金目川

江戸期の金目川は10年に1度 大洪水に見舞われたという記録があります。堤防の決壊は、地域に甚大な被害をもたらしました。堤防の修復や日常の堤防の管理は、金目川の水を農業用水として利用してきた村々で行われていました。その数は28か村にも及び、金目川は農業経営にとっていかに重要であったかを知ることができます。その村々は、「金目川通り28か村水利組合」を結び、協働して金目川の維持管理に努めてきました。

金目川が「母なる川」と呼ばれる所以を知ることができます。

⑧ 金田小学校 水準測量の井戸小屋・・・市内3か所（松原小、四之宮4丁目）

水準点・標高	平成30.1	10.085m
--------	--------	---------

⑨ 金田公民館帰着 ご苦労様でした。